

基本目標評価調書

基本目標	1 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
------	--------------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育所、学校、地域のクラブ等に普及して、運動やスポーツをする元気な子どもが増加しています
施策の展開	1 幼児期からの子どもの体力向上方策の推進 2 学校の体育に関する活動の充実 3 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

■ 評価

1 施策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標名	単位	基準値 (H22年度)	H26年度		H27年度		H28年度	目標値 (H29年度)	評価
				目安値	実績値	目安値	実績値	目安値		
	体力合計点	点	49.1	49.9	49.4	50.2	50.1	50.6	51点台	概ね順調
	体力合計点の全国順位	位	31	27	27	25	19	22	10位台	順調

(2)取組の主な成果の状況(27年度実績)

<p>○体力合計点及び順位は徐々に上がってきている。また、課題であった中学女子の値は全国平均とほぼ変わらないところまできた。</p> <p>○長野県版運動プログラム普及事業である「キッズ運動遊びどこでもゼミナール」は、幼稚園・保育園の園児や保育士、小学校の児童や教職員、地域の指導者、保護者を対象に計6回開催した。幼稚園・保育園、学校、家庭、地域など、生活の中に運動やスポーツを取り入れ習慣化していくきっかけとなっている。</p> <p>○「体づくり運動」実技講習会は、小学校児童を対象に走り方を中心とした内容を10校で、中学校生徒を対象にコアトレーニングを中心とした内容を3校で開催した。各校で作成する「体力向上プラン」の1校1運動等、体力向上に向けた取組を充実させた。</p> <p>○「子どもの体力向上指導者研修(学校体育指導者中央研修)」に県内小中高等学校から8名参加した。研修内容を郡市代表の教員に対して伝達するとともに、各郡市においては、伝達を受けた教員により指導力向上の研修会を開催し、日々の授業に活かせる内容を伝達できた。</p> <p>○小中高等学校体育・スポーツ研究協議会を6会場で開催し、各校の体育主任が参加した。体力向上にかかわっての講演、各校が作成した「体力向上プラン2015」をもとにしたグループ協議等を実施し、体力向上へ向けた取組について情報交換し、共有することができた。</p> <p>○長野県障がい者福祉センター(サンアップル)等において、障がいのある子どもを対象としたスポーツ教室等のイベントを実施した。障がいのある子どもがスポーツに親しむ機会の提供を行った。(健康福祉部)</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>【課題】</p> <p>○体育の授業を除いた1週間の総運動実施時間0分の中学校女子の割合は、16.5%と高い。</p> <p>○運動が「きらい」・「ややきらい」を合わせると22.0%で、全国平均よりやや高い。</p> <p>○小学校において、授業における「めあての提示」と「振り返り活動」が十分に実施されていないことが明らかになった。</p> <p>【今後の取組方針】</p> <p>○各校において、児童生徒が自ら運動に取り組めるよう一校一運動の内容を児童生徒の実態に応じて工夫し、充実した取組になるよう指導する。</p> <p>○運動好きな児童生徒が育つよう授業改善を一層進めるとともに、「キッズ運動遊びどこでもゼミナール」等への参加を広く呼びかけ、より充実した内容としていく。</p> <p>○各校の体育主任が出席する学校体育スポーツ研究協議会で、授業における「めあての提示」と「振り返り活動」を大事にするようお願いした。また、授業研究会等で指導主事が学校訪問をする際、この点を中心に授業改善をするよう支援している。</p>

3 スポーツ推進審議会の評価・意見

<p>【評価】県の評価は 概ね妥当 である。</p> <p>○体育の授業における3観点(めあて・メリハリ・まとめ)の導入をさらに広めること。</p>

基本目標評価調書

基本目標	2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
------	------------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	県民誰もが、年齢、体力、技術、適性、興味・目的に応じて安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた取組みが進んでいます
施策の展開	1 ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進 2 スポーツにおける安全の確保

■ 評価

1 施策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

	指標名	単位	基準値	H26年度		H27年度		H28年度	目標値 (H29年度)	評価
				目安値	実績値	目安値	実績値	目安値		
進 捗 状 況	運動・スポーツ実施率									
	週1回以上実施	%	48.3 (H24実績)	54.9	47.4	58.2	45.1	61.6	65.0	努力を要する
	週3回以上実施	%	27.9	28.7	26.3	29.1	25.6	29.5	30.0	努力を要する
	1年に一度もしない	%	10.3	6.1	11.6	4.0	11.8	1.9	0に近づける	努力を要する
	障がい者の主なスポーツ大会、イベント、教室等の参加者数	人	14,731 (H23実績)	16,194	15,629	16,694	16,040	17,209	17,700	努力を要する

(2)取組の主な成果の状況(27年度実績)

<p>○県主催スポーツイベント・信州チャレンジスポーツDAY2015及び地域版の実施により、県民のスポーツ参加意識の向上を図った。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブの育成、安定運営の支援のため、連絡協議会やクラブへの指導者派遣、アシスタントマネージャー講習会等を実施した。</p> <p>○県体育センターにおいて、幼児や高齢者の運動プログラムやスポーツ推進委員のための研修講座等を実施し、スポーツ指導者の育成を図った。</p> <p>○ホームページ「障がい者スポーツナビ」やメルマガ等を通じて積極的に広報を行った結果、地区及び県障がい者スポーツ大会、車いすマラソン大会、障がい者スキー大会等、各種スポーツ大会には3,852人の参加があった。(健康福祉部)</p> <p>○長野県障がい者福祉センター(サンアップル)における、各種障がい者スポーツ教室、イベントには12,044人が、また、長野県障がい者スポーツ協会における、障がいのある子どもを対象にしたプロスポーツ選手との体験教室やダンス教室等には144人がそれぞれ参加した。(健康福祉部)</p> <p>○ホームページ等の広報媒体を通じ、各種スポーツ大会や団体等の情報発信を行った。</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>【課題】</p> <p>○運動・スポーツ実施率については、全国的に低下傾向にある。全国平均40.4%(H27)を上回っているものの、2年連続の減少である。1年間全くしない人の割合については、3年連続11.6～11.8%となっている。運動・スポーツを行わなかった理由は「仕事(家事・育児を含む)が忙しくて時間がないから」(42.6%)次いで「年をとったから」(34.0%)、「体が弱いから」(22.5%)、「運動・スポーツが好きではないから」(10.5%)などである。全くしない割合をゼロに近づけるためにスポーツ無関心層へのアプローチが必要であると考えられる。</p> <p>○「信州チャレンジスポーツDAY2015」は、県大会参加者のべ5,004人(前年4,525人)地域版県下20会場にて5,399人(前年3,222人)が参加したが、「する」「みる」「支える」スポーツのきっかけづくりとしては、参加者数の多かった集団リレーの引率(観戦)保護者に対する体験種目への誘導や、スポーツボランティアの公募等による更なる広がり、深まりが課題である。</p> <p>【今後の取組方針】</p> <p>○1年間に全くしない人の割合をゼロに近づけるために、スポーツ無関心層へのアプローチとして「新たなプラットフォーム形成支援事業」を実施する。</p> <p>○県経営者協会、県レクリエーション協会との連携により「職場におけるレクリエーション」の普及＝「業間体操の実施」「スポーツのためのノー残業DAY」などの推奨や、健康づくりのために「徒歩通勤」「階段の使用」の推奨など、運動・スポーツの実施に関係する部局との連携を強化しながら、特に実施率の低い「働き盛り世代」に対して啓発、奨励していく。</p> <p>○県主催イベント「信州チャレンジスポーツDAY」において、大会趣旨からスポーツに親しむきっかけづくりとして「体験教室」の充実と健康づくりの観点から県の施策「ACE(エース)プロジェクト」と関連したイベント内容の充実を図るとともに、種目別プログラムの配布による「空き時間の有効利用」「体験教室」への誘導を図る。スタンプラリーカードの配布、景品交換所を各種目受付で実施する等、より多くの種目に参加させる工夫を図る。</p> <p>○障がい者の自発的なスポーツ活動を促すとともに、障がい者スポーツに対する県民の理解を促進するため、積極的に障がい者スポーツを広報する。県障がい者スポーツ協会や県レクリエーション協会等と連携し、体験教室等を実施する。(健康福祉部)</p>
--

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

<p>【評定】県の評価は 妥当 である。</p>

基本目標評価調書

基本目標	3 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備
------	---------------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	総合型地域スポーツクラブ、郡市体育協会、スポーツ少年団、公民館、その他スポーツクラブが、コミュニティの中心として、充実した活動を展開しています
施策の展開	1 コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進 2 地域のスポーツ指導者等の充実 3 地域スポーツ施設の充実 4 地域スポーツと企業・大学との連携

■ 評価

1 施策の達成状況

(1) 測定指標の進捗状況

進捗状況	指標名	単位	基準値 (H24年度)	H26年度		H27年度		H28年度	目標値 (H29年度)	評価
				目安値	実績値	目安値	実績値	目安値		
	総合型地域スポーツクラブの加入者数	人	17,050	20,500	18,591	22,000	19,852	23,500	25,000	努力を要する

(2) 取組の主な成果の状況(27年度実績)

○総合型地域スポーツクラブ育成、安定運営に向けた支援を実施し、平成27年度のクラブ数は4増となった。会員数は僅かではあるが増加した。

○総合型地域スポーツクラブの連絡協議会の実施により、クラブへ情報提供することができた。また、グループ毎の情報交換会等を通してクラブ同士の連携が強化された。

○長野県スポーツ推進委員協議会の研修会を実施し、スポーツ推進委員の実技指導力や地域のスポーツ活動全般のコーディネーターとしての資質の向上を図った。

○県営体育施設である白馬ジャンプ競技場及び伊那・長野・上田野球場について、老朽化等に対応するための改修工事を実施した。

○県立武道館建設について、「県立武道館基本構想検討会議」からの報告書等を踏まえ、「県立武道館基本構想の策定に向けた基本方針」を決定した。

○長野県障がい者スポーツ指導員養成研修事業を、長野県障がい者スポーツ協会に委託して実施した(受講者数16人)。また、長野県障がい者福祉センター(サンアップル)において、指導者から関心のある方までを対象にした障がい者スポーツ研修会を開催した(受講者数129人)。(健康福祉部)

2 課題と今後の取組方針

【課題】
○総合型クラブについては、総クラブ数は4増であったが、総会員数は微増である。新設されたクラブがある反面、クラブの核となるマネージャーの世代交代ができず、活動が休止になったクラブがあるため、永続的な安定運営が課題である。一方で行政主導ではない設立の動きが多く見られ、設立支援のための情報収集が重要となっている。

【今後の取組方針】
○総合型クラブについては、永続的な安定運営を意識した、クラブマネージャーを中心としたスタッフの育成について支援するとともに、連絡協議会を通じたクラブ間の情報交換をより一層充実させて、課題に対応していく。
○安定運営に向け、クラブの認知度向上の支援をするとともに、事業の獲得に向け、指定管理者、事業委託等市町村との連携を積極的に働きかける。
○総合型地域スポーツクラブの会員の増加が鈍化している現状を踏まえ、多様化するライフスタイルやニーズに対応できる小さなスポーツ活動拠点を地域の特性に合わせて数多く設置することにより、スポーツ無関心層がスポーツを始めるきっかけを増やすことを考えていく。
○スポーツ推進委員の資質の向上を図るため、地域スポーツのコーディネーターとしての具体的な役割が理解できる研修会を実施する。
○県営体育施設について、老朽化等に対応するための改修工事を実施する。
○平成28年5月27日に策定した「県立武道館基本構想」に基づき、佐久市及び武道競技団体とも連携し、県立武道館の建設に向けた準備を着実に進める。

○長野県障がい者スポーツ協会等と連携し、障がい者スポーツ指導員養成研修事業を実施する。また、スポーツ推進委員等に対し、障がい者スポーツに関する理解を深めてもらう取組を進める。(健康福祉部)

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

【評定】県の評価は 妥当 である。

基本目標評価調書

基本目標	4 競技力の向上に向けた選手強化、指導者養成の推進
------	---------------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	オリンピック・パラリンピックなど、国際舞台や国内大会で活躍する本県選手が増加しています
施策の展開	1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上 2 ジュニア選手特別強化の取組み 3 本県での開催が予定される全国大会に向けた選手強化

■ 評価

1 施策の達成状況

(1) 測定指標の進捗状況

	指標名	単位	基準値	H26年度		H27年度		H28年度	目標値 (H29年度)	評価
				目安値	実績値	目安値	実績値	目安値		
進捗状況	国民体育大会 男女総合(天皇杯)順位	位	17 (H24:67回)	17	20	16	14	16	15位以内 (H29:72回)	順調
	国民体育大会 冬季大会順位	位	2	1	2	1	2	1	1	努力を要する
	国民体育大会 本大会順位	位	38	20位台	41	20位台	33	20位台	20位台	努力を要する
	国民体育大会(少年)・全国高等学校 総合体育大会・全国中学校体育大会 の入賞者数	人・団体	178	186	191	190	211	195	200	順調
	平昌冬季オリンピック(H30.2)で SWANからメダリスト輩出	-	-	-	-	-	-	-	-	1人以上

(2) 取組の主な成果の状況(27年度実績)

○第70回国民体育大会では、冬季大会スキー競技会における男女総合・女子総合優勝をはじめ、本大会での9つの優勝、62の入賞を果たした。団体競技及び女子種別の活躍により、天皇杯14位となり目標を達成した。ジュニア入賞者数においても、スキー・スケート競技での活躍により目標を上回っている。SWAN生及び修了生の活躍も成果として表れてきている。

○平成26年度からの事業である「オリンピック育成支援事業」は、東京オリンピックに県出身選手が出場できるよう7競技団体16選手を指定し(H26は9団体14選手)、海外合宿や世界トップレベル選手との合宿等、期待できる選手の集中強化を図った。指定選手の内、カヌー・スラロームの矢澤亜季選手がリオデジャネイロ五輪代表に内定した(10月)ほか指定選手が紀の国わかやま国体で3名4種目で優勝するなど期待が膨らんでいる。

○ジュニア競技力向上を目的として、重点強化校・クラブを9校・14クラブ指定し選手育成を支援した結果、全国中学校体育大会で78種目、全国高等学校体育大会でも70種目の入賞を果たした。

○SWANでは、H27年度に7期生として新たに16名を選考する一方、年度末には16名が修了し、現在68名を育成中。全国中学校体育大会にメンバーから21人が出場し、同大会において優勝6種目をはじめ20種目(9名)で入賞した。また、モーグルではフィンランド・ルカで開催されたW杯デュアルモーグル6位、ジュニアW杯優勝など大いに期待できる。修了生においてもアルペンでJOC強化指定選手に選ばれるなど一定の成果が出ている。

○「第15回全国障害者スポーツ大会」に長野県選手団として78人(選手47人、役員31人)を派遣した。(健康福祉部)

○東京パラリンピック等国际大会で活躍が期待できる有望選手を支援するパラリンピアン育成支援事業を実施。6団体12名に対し、大会派遣費用等を支援した。(健康福祉部)

2 課題と今後の取組方針

【課題】

○本国体における、少年種別の獲得得点は37位(H26は47位(最下位))であり、少年の競技力の低下は、その先の成年の不振にもつながり、国際大会で活躍する選手が育ちにくくなる懸念がある。

○中学卒業までを対象とするSWANプロジェクト(Bコース)修了後の強化支援の方策。

【今後の取組方針】

○各競技団体において、中期(H30・福井国体)・長期(H39)強化計画、事業を立案し、ジュニア(中学生以下も含む)の育成及び指導者の育成を図る。とりわけ、ジュニア層のタレント発掘・競技人口の拡大について具体案(予算獲得も含む)について検討していく。

○東京オリンピックに出場できる可能性のある有望選手・競技団体に対して支援を行う、「オリンピック育成支援事業」を実施する。指定選手の活躍により本県の夏季競技における競技力向上及び底辺の拡大を図る。また、パラリンピック等国际大会で活躍できる選手についても、発掘・支援を行う。(一部健康福祉部)

○SWANプロジェクト修了生に対して(特に国体種目でないスキー(フリースタイル・スノーボード)、カーリング等)の支援について検討を行う。

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

【評定】県の評価は 妥当 である。

基本目標評価調書

基本目標	5 スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進
------	---

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	選手が県内を拠点に活躍するとともに、引退後も指導に携わるなどの好循環が創出されています
施策の展開	1 トップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進 2 地域スポーツと企業・大学との連携

■ 評価

1 施策の達成状況

取組の主な成果の状況(27年度実績)

<p>○有望な選手が在籍する県内の企業・学校に訪問し、選手の競技活動のための環境整備について要請した。(合計68内訳:学校44、企業6、官庁2、クラブ13、病院2、専門学校1(H26:75))</p> <p>○「長野県広域スポーツセンター指導者派遣事業」において、総合型スポーツクラブの活動の充実と活性化を図るため、元オリンピック等トップアスリートを県内の総合型クラブへ派遣した(のべ4名)。 ※3名(敬称略):野口京子(バレーボール)2クラブ、丹羽洋介(サッカー)、酒井浩文(競歩)</p> <p>○スポーツ界における好循環創出の方策を検討するために、トップスポーツ選手を受け入れている企業・団体の実態、現役引退後の選手を受け入れている企業・団体の実態等について情報収集を行い、長野県としての支援策について検討した。</p> <p>○(一社)長野県経営者協会へ「アスリートの就職支援」について、現状説明と協力依頼をした。</p> <p>○JOC「アスナビ」説明会を開催した。5/20(水) 県庁講堂 参加者62名(55団体、44企業) 就職希望アスリート4名</p> <p>【進捗度】 努力を要する</p>
--

2 課題と今後の取組方針

<p>【課題】</p> <p>○国体で活躍できるレベルの本県出身選手が、大学卒業後も競技生活を続ける場合その多くは県外へ就職している。</p> <p>○県内での就職を希望するアスリートが存在することや採用に関する認識が県内企業に不足している。</p> <p>○トップアスリートを活用したスポーツによる地域活性化を図る必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】</p> <p>○JOC「アスナビ」説明会(就職支援制度双方向型マッチングシステム)について、その仕組みを理解し、長野県版の構築について検討する。</p> <p>○県内企業にアスリートの現状(競技継続のために他県へ就職、もしくは競技を断念)の理解を深める。長野県版「アスナビ」のイメージを関係者へ周知するとともに長野県版「アスナビ」説明会を開催する。</p> <p>○県内企業に就職し、競技を継続している選手について、その雇用形態と練習環境等の情報収集を行う。</p> <p>○選手の立場から、雇用形態(一社雇用、複数社との競技活動資金支援契約、派遣社員契約等)や勤務条件(年次休暇等)についての研究を行う。</p>

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

<p>【評定】県の評価は 妥当 である。</p>

基本目標評価調書

基本目標	6 多面にわたるスポーツの果たす役割の活用
------	-----------------------

■ 施策の概要

5年後の目指す姿	スポーツの有する多面的な価値が県民の間で共有され、健康づくりや県内外の交流促進など、スポーツが「元気な信州づくり」を牽引しています
施策の展開	1 スポーツによる地域の一体感や活力の醸成 2 県内のスポーツ資源を活用した交流の促進と地域の活性化 3 スポーツを通じた健康で活力に満ちた健康長寿社会の実現

■ 評価

1 施策の達成状況

取組の主な成果の状況(27年度実績)

<p>○県ホームページ及び「スポーツ情報」(スポーツ課Facebook外部サイト)を活用し、本県関係選手の活躍の様子を更新し、スポーツに関する多彩な情報を発信した。</p> <p>○県とプロスポーツチームとの連携事業を「包括連携協定」に基づき、人権啓発や献血啓発などのテーマ(分野)で幅広く展開した。</p> <p>○スキープロモーションにおいて、県内全小学生にスキーリフト優待券付きパンフレットを配布するとともに、「信州“Family Style”」を各種媒体を通じてPRするなどの活動を行った。(観光部)</p> <p>○県民の健康増進を図る運動「信州ACE(エース)プロジェクト」の中で運動に関するモデル市町村や企業を選定し、その取組を積極的に情報発信するとともに、運動指導者等を対象とした効果的な運動手法に関する研修会、長野県版身体活動ガイドライン「ずくだすガイド」の活用に関する講演、グループワークを取り入れた参加型の研修会を開催し、地域や企業における運動習慣定着の促進を図った。(健康福祉部)</p>
【進捗度】 努力を要する

2 課題と今後の取組方針

<p>【課題】</p> <p>○県内にある各種スポーツ資源の有効活用が不十分であり、県民がスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画する土壌の醸成が進んでいない。</p>
<p>【今後の取組方針】</p> <p>○全国的スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興など、スポーツで地域が元気になるような取組を進めるとともに、県民に元気と活力を与えてくれる本県関係選手の活躍の様子等については、引き続き積極的な情報発信を行っていく。また、銀座NAGANOの活用について検討していく。</p> <p>○平成28年8月23日「長野県スポーツコミッション」を設立。官民一体となり県を挙げてスポーツ大会の誘致を進めるとともに、引き続きスポーツ合宿誘致推進員による誘致営業活動を行っていく。(観光部)</p> <p>○子どもたちとその家族に向けたプロモーションを通じて、「信州“Family Style”」を進め、家族でのスキー場への来場を促進していく。(観光部)</p> <p>○「信州ACE(エース)プロジェクト」を推進する中で、健康運動指導士会や総合型地域スポーツクラブ等の運動やスポーツに関する団体との協力・連携を進め、また、市町村等の運動指導者の技能向上や育成支援を通じ、地域の運動習慣定着の効果的な取組を推進する。(健康福祉部)</p>

3 スポーツ推進審議会の評定・意見

【評定】県の評価は 妥当 である。
